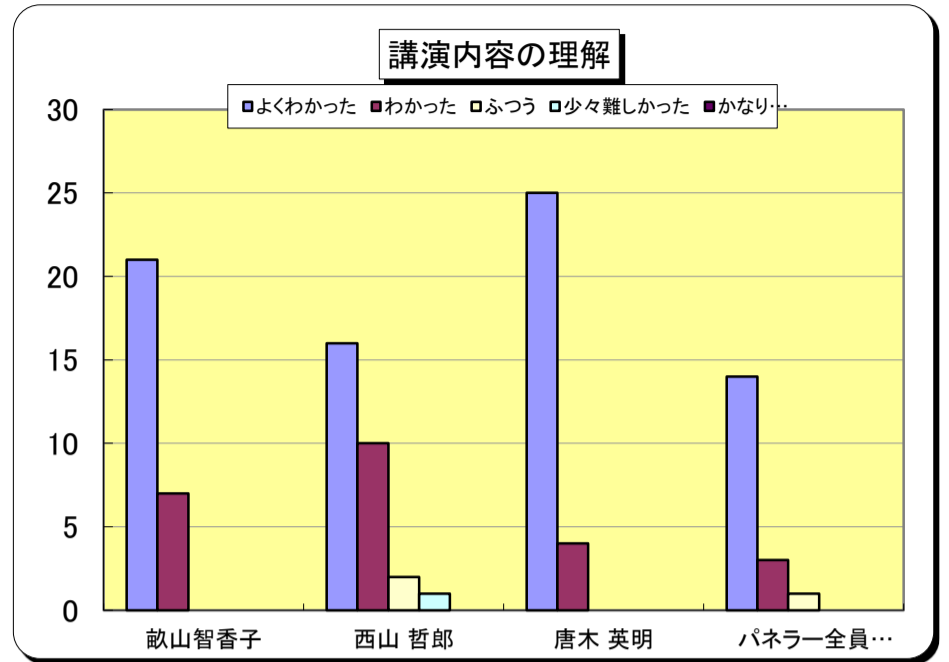
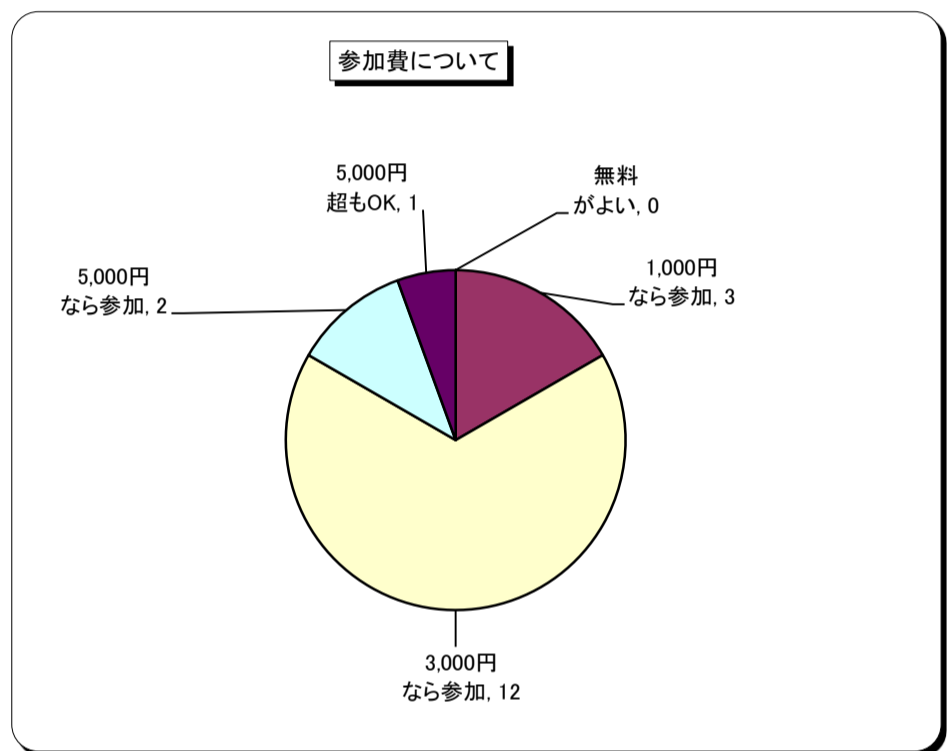


アンケート回収数30枚(参加者:50名、演者4名を除いた回収率:65%)

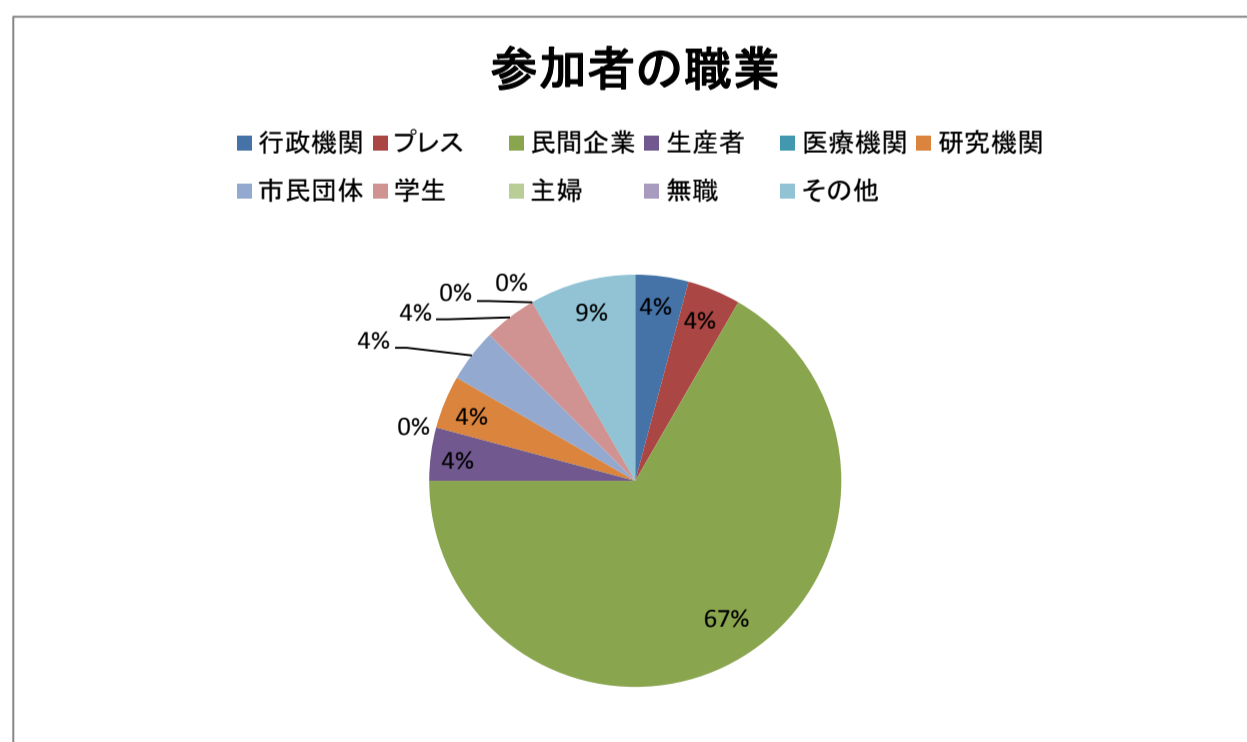
No.	テーマ	講師	よくわかった	わかった	ふつう	少々難しかった	かなり難解
1	リスクアナリシスで考える食品添加物の安全性	畝山智香子	21	7	0	0	0
2	食品業界における食品添加物の意義	西山哲郎	16	10	2	1	0
3	食品添加物のリスクミのあり方	唐木 英明	25	4	0	0	0
4	パネル・ディスカッション:『市民の食の安全・安心につながるリスクミとは』	パネラー全員 進行:山崎	14	3	1	0	0



	無料がよい	1,000円 なら参加	3,000円 なら参加	5,000円 なら参加	5,000円 超もOK
今回のフォーラムの参加費(NPOへの賛助)についてどう思われますか?	0	3	12	2	1
今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください。	(別紙)				
今後、食の安全と安心の分野で、どのようなテーマのシンポジウムを希望されますか?	(別紙)				
市民の食の安全・安心につながるリスクミのために、いま何が必要でしょうか?	(別紙)				
当NPOから季刊誌を発行しておりますが、無料購読を希望される方はあて先(郵便番号・住所・氏名・所属機関等)をご記入ください。	(別紙)				
当NPOからメルマガ(ご案内メール)を不定期に発行しております。無料購読を希望の方はメールアドレスをご記入ください。	(別紙)				



職業	
行政機関	1
プレス	1
民間企業	16
生産者	1
医療機関	0
研究機関	1
市民団体	1
学生	1
主婦	0
無職	0
その他	2



1 リスクアナリシスで考える食品添加物の安全性		畝山智香子
1	大変参考になりました。	
3	消費者に対し、添加物のみでなく食品の安全性についても情報提供すべき・・との話は、とても参考になります。今後の協会の広報活動に取り入れたいと思いました。	
4	科学的なデータでの発表でしたので、理解が深まりました。	
5	非常に分かり易かった。牛丼弁当に玉ねぎもたくさん入れますので、玉ねぎが食品添加物であったら大変です。	
7	とても具体的で、よく理解できました。	
8	とても良く分かる説明でした。食品とは？はとても重要と思いました。	
9	リスクとハザードをきちんと区別して伝えることの大切さを再認識しました。	
10	畝山先生のお話は、いつも参考になります。	
11	先生の”食品のイメージ”のスライドについて、正しい理解が出来ました。	
13	いつもながらポイントの明解なお話で、どのように人に伝えたらよいか、大変参考になりました。	
14	MOEのところは難しかったので、もう少し具体例で説明いただけるとよいと思います。	
15	食品リスクについて、一般の人に伝えることも学問であると思う。学校教育に限界があるのでは？	
16	リスクの考え方が適切な伝え方を初めて分かりました。	
18	分かり易く理解できた。どうしても食品添加物がイヤという人に、リスクを説明しても理解できない。もっとメディアの協力を得られないか。企業もネガティブイメージを利用して自社の無添加を宣伝する。	
19	食品とは、そもそもリスク・未知のかたまりであるから、ハザードを分析し、管理して必要があるというHACCP導入の目的が(個人的に)明確になりました。食品に対する認識の差が、添加物に対する認識の差になっていることが理解できました。	
21	様々な情報をベースに客観的によくまとめられた内容で、大変良く理解できた。	
22	たまねぎの例が誤解されている、とてもわかりやすい例と思います。⇒簡単にだまされることもあると理解できた。	
23	いつも分かりやすく、食品に安全はないというプレゼンはとても良い。	
24	大学生相手に授業しているが、化学物質よりも何よりも食品の安全性について説明しても理解しにくい。まず、食品自体について説明することを学んだ。	
25	科学的アプローチは十分に行う必要はあるが、食品の場合、専門家ではなく知識の十分ではない消費者・メディア	
29	添加物の考え方について、わかり易く理解することができました。	

2 食品業界における食品添加物の意義		西山 哲郎
1	思い切りの良い論調は理解し易いと思った。	
3	添加物が「体にとって不要なもの」という考えは、今まであまり自分の頭にありませんでしたが、なるほどと思っています。今後、消費者への説明において、これを頭に置いておくべきと思いました。	
4	食品業界にいないので、わかりづらいことが多かったですが、内容はおもしろかったです。	
5	食品添加物の安全を広げるやり方・方法が出来ないものか。脱酸素剤と容器の工夫は本当に参考になる。	
7	とても具体的で、よく理解できました。	
8	無添加を企業が取り組むことはマーケティングとして問題	
9	ナチュラルとヘルシーについての米国の話は非常に興味深いと思いました。畝山先生の冒頭に言葉を定義してからのお話がありましたが、消費者と製造・研究者が同じ定義で言葉を認識できる環境を作ることが大切だと考えます。	
11	参考になりました。差しつかえのない範囲で非配布のスライドをSFSSのHPIにUPLしてください。	
12	食品添加物について、ご本人の経験や知識からわかりやすく面白く話を聞くことができた。	
13	諸外国との規制の違いなど、わかりやすいお話でした。	
14	例があって、おもしろかったです。	
15	(スライドの字が小さい) 添加物嫌いは一部ではないか？ 安全を伝える仕掛け(即時にわかる・感じることの仕掛け)も大事かと。	
16	食品事業者の苦悩がよく分かりました。 名称変更はおもしろいアイデアだと思います。	
18	よく分かりました。現実的な話で良かった。	
19	国により添加物の定義が異なることについては驚きと共に、定義があつたとしても、各自が添加物をどのように認識しているかに差があるのだと思いました。(弁当・和菓子の例のように)	
20	普段なかなか聞けない話が聞けてよかったです。	
21	話がおもしろ過ぎ。あつという間の50分間で、多くの気づきが得られて良かった。	
23	食品向上剤の命名はすばらしい。	
24	多くの国際的なご経験と知識に基づく興味深いお話でした。もっと聞きたかったです。	
25	添加物が許容されることは(可能性は)少ないと思う。メディア等のネタとして定期的に取り上げられる。品質向上剤・安定剤という印象を良くする方向もありえるのではとも思いました。	
29	消費者・企業の側に立った意見わかり易く理解することができました。	
30	商社として海外や消費者を意識したプレゼン非常にわかりやすかったです。ありがとうございます。	

3 食品添加物のリスコミのあり方		唐木 英明
1	用語に留意されて、略号・外来語etcの専門用語を出来る限り避けて、日本語・一般用語に変えての説明は理解しやすいと思う。	
3	「利益と楽観バイアス」のお話、非常に参考になりました。消費者の目線を頭に入れて、広報活動に努めたいと思います。	
4	日本の歴史的背景や人間の本能が関係していることを知ることができました。	
5	リスクコミュニケーションの大切さは、よく理解できました。 安全より安心、安心は心の問題であり、何をもって公開情報で示していくか。	
7	とても具体的で、よく理解できました。	
8	リスクの考え方が良く分かった。	
9	科学教育とリスク教育の強化が大切であることに共感しました。学校教育のみでなく、家庭での教育についても議論が必要ではないかと思えます。	
10	リスコミの上で重要になる点について、非常に学ぶところが大きかったです。	
11	大変整理されたお話が参考になりました。	
12	リスクコミュニケーションの構造について、よく理解できた。	
13	安全と安心について、理論的な構成について大変よくわかりました。ここまでわかっていながら、解決策が見出せないのが残念です。	
14	すぐわかりやすく、まとめられていて良かったです。	
15	確証バイアスを乗り越える仕掛けがあるかなと思いました。 (考えるとバイアスにはまるので)	
16	リスコミのあり方で、方針についてよく理解できました。 課題も見えてきたと思います。	
18	いつも通り分かり易い話し方で、共感できました。食品添加物にもう少し集中したお話を頂けたらと思いました。	
19	リスク管理者の存在と、どのように情報を発信していくのか、誤解というものがある中で困難だと思うが、そういった活動がされるとよいと思う。	
22	人の判断のメカニズムがわかりやすかったです。	
23	整理されたプレゼンでわかりやすかった。	
24	非常に論理的に明解に不安の心理のご説明をいただき、また何が必要かもお話いただきました。今後私にできることを考えていきたいです。	
25	国からの情報提供がもっと多く必要、食品安全委員会からのコメントをもっと出しても良い。専門家だけでなく一般・メディアからの発信(働きかけ)を期待します。	
27	情報を伝える上で、つね日頃感じていることを、はっきりした説明をお聞きできました。スカッとしたお話をいただきました。	
29	リスコミのあり方について、十分に理解することができました。	
30	リスコミ・ヒトの認知特性も踏まえた講義	

4 パネル・ディスカッション：『市民の食の安全・安心につながるリスコミとは』		パネラー全員 進行：山崎
1	良かった。	
6	さまざまな情報をいただくことができました。	
7	とても具体的で、よく理解できました。	
8	とても面白い話が多くて良かったです。	
9	添加物の安全性を教育することが、いかに難しいか、ざっくばらんに議論されていることが聞けて、とても参考になりました。	
11	スッキリしました。学校教育、教員教育をどのように始めるのか？	
12	食品添加物と安心・不安のコミュニケーションの関わりを考える機会をいただきました。	
13	本質論だったと思います。文科省を動かすことから始めなければと思いました。	
15	仕掛けのコメントがほしかった。 ファンづくりの話題もほしい。	
16	有意義な時間でした。	
18	意見交換としては、とても参考になった。具体例が多く良かった。	
27	熱心な議論ができてすばらしい会になっていくと思います。よろしくお願ひ致します。	

5 今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください。	
1	良い。
2	関心の高いことなのに、実はよくわかっていないかも・・と思い、今回初めて参加させていただきました。管理栄養士養成課程の教員をしていますが、食品添加物についての、法律や分類については学びますが、そもそも食品とは、添加物とは・・といった本日の講義の内容も大変重要だと感じました。また、リスクコミュニケーションというあらたな考えについて話を聞くことができ、他の分野でも有用だと感じました。大変面白い内容でした。
4	大きい企業全体で足なみそろえて、添加物はリスクが低いことを消費者に伝えてほしいと思いました。
5	研究者の方々が、前向きに食品添加物の安全性を真剣にとらえていて、かなり様々な提言もしていること。逆にマスコミ等の旧態然とした取組姿勢に疑問を感じる。この打開策が必要。
7	食添のリスコミの問題点がよくわかりました。
9	情報の質だけでなく量も大切なのは、そのとおりだと思いました。
10	それぞれの視点からバランスのとれた議題で、とても参考になりました。行政からも同じ様なリスコミを実施した方が良いと思います。
12	興味深い話題をおもしろく聞くことができた。
13	講演者が適切に選ばれていて、非常に分かりやすい内容になっていました。
14	地方での開催があると良いです。
15	伝えることの研究が大事かなと思いました。また実務的な工夫→やはり仕掛けもいるかも→「見てわかる」「聞いてわかる」が大事と思いました。
16	適切に伝えることの重要性と、その難しさについて理解できました。
17	個々のお話はおもしろかったです。消費者がなぜわからないか、科学嫌いだけじゃない理由についても考えて対策を考えたいです。
18	身近な話題、テーマで分かり易かった。こういうテーマを多くしてほしい。
19	認識の差や、誤解というものが根底にあると感じました。それをなくすために対話の必要性を感じました。
21	テーマが食品添加物ではあったが、シリーズの締めとして、食の安全と安心とのとりまとめ的なセッションとなって良かった。
23	いつも良い講演者・テーマで満足。
24	「食品添加物はエコ」という情報提供の仕方は賛成です。他にも(否定ではなく)プラスにもっていくリスコミを考えたい。
25	安全性についてはメディア・情報提供が必要。感覚的な部分が実際には大きいのでは。科学情報だけでは厳しいか？
29	いつも思うことですが、様々な立場の方の意見を伺うことができ、大変考えさせられると共に勉強になります。
30	今回のフォーラムは、いつもにも増して議論に納得感がありました。「食のリスコミはほとんど誤認に基づくもの」というメッセージが大きかったです。畝山先生と唐木先生、西山さんが絶妙なバランスでした。

6 今後、食の安全と安心の分野で、どのようなテーマのシンポジウムを希望されますか？	
1	機能性成分(物質)についての情報提供etc
7	依然として食中毒発生原因の上位にあるノロウイルス・カンピロバクターのコントロールについて
8	フードディフェンス、food fraud、GFSI 認証
9	有機、オーガニックについてとりあげてほしい。ゲノム編集についても興味があります。
11	TVの科学番組の制作者を演者に。
12	リスクマネジメントの総論と客論
13	学校教育に安全・安心をどのように取り入れていくのか、真剣な議論が必要と思いました。
15	わかりやすい「カウンター情報」の出し方 文献(安全情報)の整理の仕方(学術文献は多いので)→ファクトチェックの解説
16	HACCP指導のあり方(行政・事業者・双方の視点)
17	今回のテーマは、くり返し取り上げていただいよと思います。あえて文系の研究者(心理・哲学・歴史)の考えも聞きたいです。
18	食品照射の安全性とリスコミをテーマにした情報交換をお願いしたい。
25	食育に関して
26	今日の話にもあったが、各回にメディアの方数人、行政の方数人(中央官庁の場合と地方の食品衛生行政担当者)、事業者の方数人を食品安全のリスコミへの取り組み状態、難点について、それぞれ集めた討論をしてはどうか？

7	市民の食の安全・安心につながるリスコミのために、いま何が必要でしょうか？
1	「寺子屋」式の拡大(対象者を定めて対話型) 一般消費者が理解しやすい資料(パンフレットetc)の提供は
2	社会に出てしまうと、関心のうすい人や先入観が強くあると正しく情報を伝えるのは難しい。ある程度、義務教育にとり入れていく必要があるのでは？政府・大学・企業が正しい情報を発信し続ける。ある程度の法規制なども必要。
7	食品のリスクの正しい理解(リスク評価→リスク管理の優先順位づけなど。ゼロリスクではなく。)
9	言葉がきちんと定義されていないので、定義が必要だと思います。 しかしながら、定義が難しいと消費者に伝わる時に様々なとらえ方をするので、分かりやすい言葉にすることも大切だと思います。
10	情報提供、情報公開がやはり重要だと感じました。 「不安をあおるから隠しておこう」が一番ダメなのですね。
12	会話の枠を広げていくことが必要
13	食品を提供する側が間違っただけを流したり、とんでも食品が売れるからといって、つくらないことも大切ではないでしょうか。
14	行政の説明
15	給食問題が出ているので、学校教育で、本来の食品安全と安心リスクを考える機会かも (大磯の中学校とか)→そんな給食でも欲しい人はいる。いつまでも豊かではないかも。
16	マスコミが不安をあおることに加担をしている気がします。 国民だけでなく、報道機関の科学担当者向けの説明も必要かと思います。
17	直接対話、科学者・行政だけでなく企業—消費者が3者で語ること。
18	メディア対策と積極的な働きかけ
23	言い続けること。
24	国民とリスク管理者との間の不信感を払拭する活動 リスクコミュニケーターの養成
29	消費者の知識の向上、知る機会を増やすこと、消費者(個人)の責任について消費者が認識すること。行政・企業が共に知る機会を消費者に対し作ること。